

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成30年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
30-5	道路構造及び空洞特性に適応した陥没危険度評価と合理的な路面下空洞対策についての研究開発	東京大学 教授 桑野 玲子	A
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用 道路陥没対策の合理化を実現するため、空洞の調査・診断・補修・予防に資する道路陥没ソリューションの提案を研究目的として、空洞調査方法の高度化、危険度評価指標の開発、空洞の補修・予防方法の開発などを旨とする。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt; 室内実験、現場試験等により空洞の成長過程や緩み領域の発生・把握手法の提案など、空洞挙動の解明の点で大きな成果が得られている。また、調査から対策、記録データによる定期的な維持管理への適用や他の箇所への応用にも繋がる成果である。このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 本技術の活用は、路面下空洞評価において有用と評価できる。今後さらなる判定手法に関する信頼性の向上が望まれる。</li><li>2. 研究目的は達成されたと言えるが、空洞の発生メカニズムの多様な変数についてさらに研究が進むことを期待する。</li><li>3. 調査手法の相違により空洞評価結果が異なってしまうことで、記録されたデータが次回点検や他の箇所の調査に生かすことができなくなってしまうように、今後、データの種類、質、量の重要性を示していただきたい。</li><li>4. 研究成果の実用と進展のため、道路管理者との連携を積極的に進めていただきたい。</li><li>5. 空洞に起因する陥没問題において、路面下空洞調査の実態、一定のエリアを対象とした陥没ポテンシャルマップの作成、陥没危険度評価、空洞成長メカニズム、対策手法など多様な観点から研究されており、一連の対策の合理的なプロセスにおける基本的な考え方を整理したものとして評価できる。地域の実情に応じた陥没ポテンシャルマップの作成方法の提案や、提案した補強方法の実務適用に向けた耐久性評価等を今後期待したい。</li></ol>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第43回新道路技術会議において審議したものである。